

事業報告書

2016年度
〈平成28年度〉

社会福祉法人 慈愛園

障害者支援施設

熊本ライトハウスのぞみホーム

平成 28 年度 事業報告書

熊本ライトハウスのぞみホーム

| | | |
|--------|--------------------------|---------------|
| 施設種別 | 障害者支援施設 | |
| 施設長名 | 原口 庄塑 | |
| 職員定数 | 41 名(正職員 32 人・非常勤職員 9 人) | |
| 利用者の状況 | 生活介護支援 | 40 名(現員 40 名) |
| | 施設入所支援 | 40 名(現員 40 名) |
| | 短期入所支援 | 2 名 |
| | 日中一時支援 | 2 名 |

1) 施設運営について

「隣人を自分のように愛しなさい」を朝礼時に復唱し、キリスト教の愛と奉仕の精神に基づいて利用者、職員と穏やかな日々が送れるよう心掛けた。

熊本地震により、生活のリズム、体系が変わらざるを得なくなったが、現場支援員、調理員等がそれにふさわしい配慮と対応をしたことで、甚大な災害にもかかわらず、利用者の安全・安心を守り、この年度を乗り越えることが出来た。

震災後から一般避難者の避難場所として、4 月 17 日から指定福祉避難所として、障がい児・者とその家族を含む方々に住食を提供し、12 月 4 にまで 232 日間、施設を開放することが出来た。

ハード面については、食堂棟の外壁改修を計画していたが、地震災害のため、食堂棟建替えという方向変換をし、年度末にようやく災害復旧国庫補助金の交付が確定したため、次年度に本格的な改築工事を行う目処が立った。これで、普段の生活に戻れることを期待し、待ちたい。

利用者は、時間差によって食事をとるなど生活リズムに慣れるまでに職員の地道な支援により精神的に支障が出ることもなく、過ごされていることは幸いである。

職員間でのコミュニケーションは、まだまだと言わざるを得ないが、OJT(職場内における管理監督者のもとで行われる教育・訓練)や講師を招いてテーマを絞った研修を実施した。また、外部の発達障がいスーパーバイザー養成研修や視覚障がい者移動支援従事者資質向上研修を職員に受講させ、職員の資質向上に努めた。専門性はもとより、常に人的課題として必要とされる人材として育成の視点から組織性のあるプログラムの導入の必要性を感じている。

併せて施設運営上の課題として、虐待防止の取組と後見人制度の必要性を施設の立場で再考する必要がある、リスクマネジメントの面から継続して学習と意識の強化に努めたい。

2)利用者への福祉サービスについて

個別支援計画に基づいた職員の支援により QOL や IQOL の向上に取り組むことができた。家族の理解と協力を得ながら、利用者の方々がそれぞれの特性に合わせて時間を過ごせるよう、支援サービスに心掛けた。

主な対外交流として、木曜礼拝、絵本読み聞かせ、アニマルセラピー訪問、ルーテル学院中学体験学習等があり、利用者の生活の一部として楽しみでもあり、当施設だけではできない大きな支援ツールとなっている。

利用者1名は、当施設での対応よりも老人施設での介護が望ましいとの判断からサービス管理責任者とケアマネジャーの調整により同法人のパウラスホームへ入所移行ができた。今後、この移行の連携がうまく行くことを期待したい。

3) 健康管理と安全対策について

今年度は4月の熊本地震直後より、ライフラインの不通や長引く余震、日課の変更、食堂棟が使用できなくなったことなどで、利用者の不安や不満等もみられ精神的なフォローに努めた。また当施設での生活が難しくなった利用者の方の生活の場の検討を進めるにあたり、同法人の高齢者施設との連携により、入所移行へ繋げることができた。

嘱託医健康診断・・・毎月1回の来診

精神科検診(28年7月21日・29年2月16日)

成人病検診・・・成人病検診車(28年12月7日)

のぞみホーム居室・ホールを診察室にして、生活の場で検査実施

高野病院訪問診療・・・3ヶ月に1回 痔疾患・便秘・排便コントロール等について検討

外来受診困難利用者に対し、居室で受診・治療を受ける。

アニマルセラピー・・・犬とのふれあい、交流をもち、精神と肉体機能を向上させる。

* 入院や緊急受診が多く、受診の協力を依頼した。

日赤病院 くわみず病院 高野病院

* 28年度入院者:てんかん1名 鼻腔骨折1名

安全対策の強化として、3ヶ月1回の避難訓練や消防署の立会いのもとに夜間の避難訓練を実施、また今年度は初めて防犯講話も行い、利用者や職員に対する安全教育に努力した。

4)職員の専門性・資質の向上について

利用者の方に質の高いサービスを提供するため、施設内・外の研修や自主学習会等を行うと共に自己研鑽に努め、福祉サービス職員としての知識や対人援助技術を高めた。

① 施設内研修

1. 聖書研究会 : 健軍教会の牧師を招き、聖書を通じてキリスト教と社会福祉施設職員の基本的なあり方を学んだ。(月1回)

2. 新任職員研修： 4月6日

牧師・園長・事務長・各部主任・看護師・栄養士が講話をした。

3. 衛生講話 : 市保健所より「シャットアウト食中毒について」のテーマで、手洗い体験を行い、ノロウイルス等わかりやすく講話をしていただいた。(28年9月20日)

4. 防災講話 : 東警察署より講師を招き具体的な防犯対策やさす股を使用した実技講習を行う等具体的な実例を踏まえた講話をしていただいた。
(28年10月18日)

5. 発達障害内部研修: 発達障害や強度行動障害を持たれた方の背景や具体的な関わりについて具体的な実例を踏まえた講話をしていただいた。
講師:西南学院大学 人間科学学科 野口 幸弘先生
(28年9月2日)

6. 虐待防止内部研修: 虐待に関する内容や法律、具体例等を踏まえながら具体的な取り組みへのアドバイス等をわかりやすく講話をして頂いた。
講師:熊本県健康福祉部 障がい者支援課
広域専門相談員 渋谷 あきこ氏
(29年1月13日)

7. 自主学習会

- | | |
|------------------|---------------|
| ○個別支援について | ○非常設備の対応について |
| ○働き人、プロとして働き方の心得 | ○AED 研修 |
| ○虐待防止・人権擁護について | ○体罰・身体拘束等について |
| ○対人援助について | ○ケース検討会 |
| ○リスクマネジメントについて | ○ヒヤリハットについて |
| ○相談・苦情解決等について | ○ストレスチェックについて |
| ○感染予防対策について | ○服薬支援について |
| ○発達障害・強度行動障害について | |

* サビ管(サービス管理責任者)会議、職員会議、給食委員会、リスクマネジメント委員会を中心に、学習会を行い、利用者ひとり一人が安心した生活ができるように配慮した。

② 施設外研修

- ・施設長関係研修会
- ・慈愛園施設長等研修
- ・法人新任研修
- ・福祉大会
- ・施設・きずなの会合同研修会
- ・行動援護従事者養成研修
- ・成年後見制度利用促進研修
- ・発達障害支援スーパーバイザー養成研修・リスクマネジメント研修
- ・視覚障害者移動支援従事者(同行援護従事者)資質向上研修
- ・中堅職員キャリアアップ研修
- ・カウンセリング研修
- ・救急法研修
- ・九州地区施設長研修
- ・法人管理職研修
- ・法人研修
- ・知的障害施設職員研修
- ・県障害者虐待防止法・権利擁護研修
- ・サービス管理責任者研修
- ・視覚障害リハビリテーション基礎講習会
- ・新任職員キャリアアップ研修
- ・プラダ―ウィリー症候群研修
- ・防災講習
- ・福祉職場 OJT 推進研修
- ・ビジネスマナー研修
- ・社会福祉施設ボランティア活動推進研修会・自閉症スペクトラム研修

* 施設外研修については、ミーティングで報告し、後日、全職員に研修報告書を回覧しながら、内容を深く学んだ。

* 施設内外の研修に参加することによって、職員のスキルアップができたこと、利用者の方に質の高い福祉サービスを提供することが出来た。